

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		養護老人ホーム入所措置事業		担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成 5年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	法定事務
	基本事業	高齢者福祉サービスによる支援		市民協働	
予算科目コード		01-030103-03 単独	根拠法令・条例等	老人福祉法，老人福祉法施行令，老人福祉法施行規則，守谷市老人福祉法施行細則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 対象者の実態把握に努め，心身・経済状況，家庭環境を踏まえた具体的処遇方策の確立を図った上で，適切な施設への入所措置を行う。 入所措置を適切に行うため，守谷市老人ホーム入所判定委員会において，措置要否の判定を行う。 利用者の負担額は，前年の所得により決定する。
老人福祉法において「65歳以上の方で，環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難な方を養護老人ホームに入所を委託する。」との入所措置が定められている。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
65歳以上の高齢者で環境上及び経済的な理由により在宅での生活が困難な方の安心安全な生活の場を確保する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
高齢者の日常生活における負担が軽減され，安心して生活ができるよう支援する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
相談等から対象となる方の実態を把握する必要がある。	随時 対象者の心身・経済状況，家庭環境を踏まえた具体的処遇方策の確立を行う。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
必要な実情の把握に努める。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	必要最低限度の入所措置コストを維持していくもの。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
環境上及び経済的理由により自宅で生活が困難な場合、養護老人ホームへ措置して安定した生活を確保する。	入所判定委員会を開催し、新たに1人を入所措置した。 入所継続の可否に関しては、日常生活の動作等の状況について本人及び施設担当者と面談を行い見直しを行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
入所措置人数（人）	8.00	6.00	5.00	6.00	6.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	65歳以上の高齢者で環境上及び経済的な理由により在宅での生活が困難な方の安心安全な生活の場を確保する。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	環境上及び経済的理由により自宅で生活が困難な場合、養護老人ホームへ措置して安定した生活を確保する。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	16,685	12,070	12,291	16,076	16,076
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	9,738	16,076	16,076
	一般財源	16,685	12,070	2,553	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	130.00	222.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	533	910	0	0
トータルコスト		16,685	12,603	13,201	16,076	16,076

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		ひとり暮らし高齢者乳製品配布事業		担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成10年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	任意の事務
	基本事業	高齢者福祉サービスによる支援		市民協働	
予算科目コード		01-030103-04 単独	根拠法令・条例等	守谷市ひとり暮らし高齢者「愛の定期便」事業実施要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
ひとり暮らし高齢者が増えてきたため、安否確認が必要となった。	ひとり暮らし高齢者の内、ひとり暮らしに不安がある方に対して、申請に基づいて乳製品（ヤクルト）を届けることにより、高齢者の孤独感を解消するとともに安否の確認を行う。 乳製品販売業者へ手渡しにより配布することを委託し、配達員の声掛けに応じない場合は、安否を確認し、必要に応じて緊急連絡先（家族，親類等）へ通報する。 利用回数は、月曜日から金曜日の内、週2回以内とし、1回の訪問で2本届ける。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
65歳以上のひとり暮らし高齢者を定期的に訪問することで安否確認及び孤独感の解消を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
高齢者の日常生活における負担が軽減され、安心して生活ができるよう支援する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
①愛の定期便の目的は，単に乳製品の配達ではなく高齢者の安否確認であるということが，市民に浸透していないため，制度の目的を周知する必要がある。 ②当初登録した緊急連絡先が変わっている方がいて，現状の緊急連絡先を把握していく必要がある。	随時 窓口において担当職員が事業説明を実施 平成30年1月～3月 全利用者に対する通知により緊急連絡先の確認をする。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①窓口等での事業説明を丁寧に行い，目的は安否確認であるということを理解していただく。 ③利用者全員に緊急連絡先について，相違がないか確認の通知を行い，変更のある場合には届出をしていただく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	ひとり暮らし高齢者が安心安全に自立した生活を継続するために支援する事業であり，継続が必要である。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度を取組（評価、課題への対応）
安否確認することで事故防止が図れることから、PRに努め利用促進をしていく。	利用者の定期的な乳製品配布により安否確認を実施した。 不在等で安否確認できない場合は、訪問及び緊急連絡先の方（家族、親類等）やケアマネージャー等と連携を図り、対象者の安否確認をした。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
安否不明等の連絡件数（件）	83.00	53.00	41.00	80.00	80.00
家族等に緊急連絡が必要になった件数（件）	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	定期的な乳製品配布のための訪問は、利用者の安否確認に有効で、利用者自身にとっても、生活のリズムを図ることができる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	事業のPRに努め利用促進を図る。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	988	888	1,040	1,036	1,036
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1,040	1,036	1,036
	一般財源	988	888	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	36.00	65.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	148	267	0	0
トータルコスト		988	1,036	1,307	1,036	1,036

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		ひとり暮らし高齢者緊急通報体制等整備事業		担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成 2年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	任意の事務
	基本事業	高齢者福祉サービスによる支援		市民協働	
予算科目コード	01-030103-05 単独		根拠法令・条例等	守谷市高齢者生活支援事業実施要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
ひとり暮らし高齢者等が増加し、急病や事故等の緊急事態時の連絡体制の整備が求められていたため開始することになった。	・急病や事故等の緊急事態において、緊急通報のボタンを押すだけで、常総広域消防本部へ通報される機器を設置する。 ・利用申請時に、家屋の見取り図や地図、医療保険、かかりつけ医、親族の緊急通報先などの情報を提出してもらう。 ・利用者の情報は常総広域消防本部と事前に共有することにより、緊急時には即座に対応できるようになる。 ・機器代については、利用者の前年の所得に応じて利用者負担額を決定する。 なお、設置及び撤去等の工事費については、利用者負担とする。 2年に1回、電池交換及び保守点検を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
ひとり暮らし高齢者等の在宅生活での不安解消を目的に、急病や事故等で救助を必要とする場合の迅速な対応のために消防署への通報体制を整える。	
（参考）基本事業の目指す姿	
高齢者の日常生活における負担が軽減され、安心して生活ができるよう支援する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
高齢者が増えているが，利用者数が横ばいであることから，潜在的な利用対象者がいると思われる。	随時 ケアマネージャー・民生委員等を通じて，事業の周知を図る。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
事業のPRに努め，利用促進を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	緊急事態に備えて機器を設置することで，ひとり暮らしの不安を解消する。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の実績（評価、課題への対応）
緊急事態が発生した際に素早く通報できる体制整備及び機器の管理を行う。	電池交換及び保守点検を実施し機器の管理を行った。（隔年実施）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
緊急通報利用回数（件）	9.00	4.00	6.00	10.00	10.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	ボタンを押すだけの簡易な方法で消防本部へ通報できることから、ひとり暮らし生活の緊急時の不安を解消することができる。 緊急時には即座に救急搬送などの対応ができる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	緊急事態に備えて機器を設置することで、ひとり暮らしの不安を解消する。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	428	322	432	523	523
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	432	523	523
	一般財源	428	322	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	83.00	62.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	340	254	0	0
トータルコスト		428	662	686	523	523

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		軽度生活援助事業		担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成14年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	任意の事務
	基本事業	高齢者福祉サービスによる支援		市民協働	
予算科目コード		01-030103-11 単独	根拠法令・条例等	守谷市高齢者生活支援事業実施要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
日常生活上の援助が必要な方へ家事支援を行うことにより、心身の負担を軽減するため、介護予防地域支え合い事業の一つとして開始した。	・洗濯・清掃・買物等の軽易な家事援助を行う。 ・守谷市シルバー人材センターへ業務委託し、シルバー人材センターは、ホームヘルパー2級取得者を派遣する。 ・利用時間は、1週間（月曜日から金曜日）の内、2時間までとする。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
対象者は、要介護認定を受けていない①65歳以上のひとり暮らしの方 ②65歳以上のみの世帯に属する方とし、自立した在宅での生活を継続してもらうことを目的とする。（ただし、市町村民税が課税されている方及び市町村民税が課税されてる方と生計を一にする方は除く。）	
（参考）基本事業の目指す姿	
高齢者の日常生活における負担が軽減され、安心して生活ができるよう支援する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
高齢者が増えているが，利用者数が横ばいである。	随時 ケアマネージャー・民生委員等を通じて，事業の周知を図る。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
潜在的な利用対象者がいると思われるため，事業のPRに努め，利用促進を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	この事業を利用することにより，それぞれの状態に応じたサービス提供を受けることで，自宅において自立した生活を送ることができる。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の実績（評価、課題への対応）
援助の範囲について理解を得るため、制度の正しい理解を図る。	事業のPRを行い、利用促進を図る。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
利用者実人数（人）	15.00	18.00	14.00	13.00	20.00
利用時間数（時間）	1,980.00	967.00	764.00	936.00	1,980.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	家事支援を行うことで心身の負担を軽減することができる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	自立した生活を継続するため、家事支援を行う。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	2,087	1,307	1,033	1,268	1,268
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	850	1,268	1,268
	一般財源	2,087	1,307	183	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	27.00	47.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	111	193	0	0
トータルコスト		2,087	1,418	1,226	1,268	1,268

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		寝具洗濯乾燥消毒サービス事業		担当課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間
	施策	高齢者福祉の推進		種別
	基本事業	高齢者福祉サービスによる支援		市民協働
予算科目コード		01-030103-12 単独	根拠法令・条例等	守谷市高齢者生活支援事業実施要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
寝具の衛生管理が困難な方の在宅生活を支援するため。	寝具（敷布団・掛け布団・毛布）の洗濯・乾燥及び消毒を年2回実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
ひとり暮らし高齢者や寝たきり等の理由により、寝具の衛生管理が困難な方の在宅生活における清潔で快適な生活環境を整える。	
（参考）基本事業の目指す姿	
高齢者の日常生活における負担が軽減され、安心して生活ができるよう支援する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
サービス費用の一部（8割）を市が負担する制度の有効性と、サービスを必要とする高齢者に十分に行き届いているかを検証する必要がある。	第1四半期 他市状況把握と事業の検証 第2四半期 事業見直し案、今後の方向性案作成 下半期 H31予算反映、見直し等の場合の周知
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
他市事例等を調査し守谷市との比較をするなどして、事業の効果や対象者等の検証を行い、今後の事業のあり方を検討する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	事業は継続しながら、次々期に向けた事業検証を行う。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
清潔で快適な生活環境を整える。 今後は、近隣市町村の実施状況等を参考に事業の必要性の見直しを図る。	例年よりも大きなスペースを利用し、年2回の広報を実施した。 近隣市町村の状況把握及び縮小又は廃止の検討を始めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）						
指標名		基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
利用者数（人）		48.00	14.00	17.00	18.00	18.00
申請者の利用率（％）		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
成果の動向（→その理由）						
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下		寝具の衛生管理を行うことが困難な方の支援ができる。 対象者の見直しを図り、非課税世帯を対象とし、利用者負担額の見直しを行った結果、利用者数が減少した。現在、寝たきりで寝具の衛生管理が困難な方の利用はなく、一人暮らしの非課税世帯の高齢者の利用となっている。				
今後の事業の方向性（→その理由）						
☐ 拡大 ☒ 縮小 ☐ 維持		☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	清潔で快適な生活環境を整える。 近隣市町村では廃止されているところが多い。 寝具洗濯乾燥サービスは寝たきり等の理由により、寝具の衛生管理が困難な方の在宅生活を支える事業ですが、利用者に寝たきりの方はいなく、利用者が減っている中、一人暮らしの高齢者で非課税の方の利用が多く、本来の事業の目的は達成されている。寝具の衛生管理が困難な方については、軽度生活援助事業や介護保険のサービスで代用が可能であるため、今後は廃止も検討していく。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	170	55	70	111	111
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	56	111	111
	一般財源	170	55	14	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	11.00	36.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	45	148	0	0
トータルコスト		170	100	218	111	111